

消防功労 元両磐地区消防組合消防司令長

瑞宝
双光章

阿部孝志さん

あべ・たかし 70 花泉町

1964年花泉町消防団常備部団員、72年の両磐地区消防組合発足に伴って同組合消防士に。2003年の退官まで、40年にわたり防火防災に力を尽くしました。昭和40年代の永井地区での大規模火災では、水利も乏しく「大変苦労した」と当時を振り返ります。「災害の現場は、命がけ。同僚とは、信頼関係で結ばれていた」と感謝し「家族の支えがあつたこと」と今回の受章について話していました。



統計調査功績 元農林業センサス調査員

藍綬
褒章

星 達男さん

ほし・たつお 76 藤沢町

1959年から岩手県農林漁業統計調査員として従事。以来、農林業センサス調査11回、国勢調査11回など計47回の調査に従事してきました。調査では地域の人たちとの信頼関係を築くと同時に、正確な調査を心掛け、手引きを熟読し、何度も点検しました。昭和30～40年代は高度経済成長期。都市部への出稼ぎも多く「人口の推移は時代を反映していた」と感慨深く話し「身に余る光栄」と受章の喜びをかみしめていました。



税務行政事務功労 元仙台国税局調査査察部長

瑞宝
小綬章

後藤時廣さん

ごとう・ときひろ 70 真柴

1964年、一関税務署徴収課に配属。各地の税務署を経て、約20年間を国税局査察部門で過ごしました。「査察は申告納税制度の最後のとりで。悪質な脱税は絶対に許さない」という使命感を持って勤務しました。

2003年に退職した後は、培った税知識を役立てようと市内に税理士事務所を開所。「税務に携わる職員全体が評価された。後輩たちの励みにもなる」と笑顔で語り「仕事に没頭できたのは妻のおかげ」と激務の日々を振り返りました。



春の叙勲

政府は4月29日付けで、春の叙勲受章者を発表しました。国家または公共に対して功労のある人に、勲章が授与されました。

危険業務従事者叙勲

政府は4月11日付けで、第24回危険業務従事者叙勲受章者を発表しました。非常に危険性の高い業務に精励した人に勲章が授与されました。

春の褒章

政府は4月28日付けで、春の褒章受章者を発表しました。社会の各分野における優れた行いや業績のある人に褒章が授与されました。

警察功労 元警視正

瑞宝
双光章

藤野 進さん

ふじの・すすむ 71 千厩町

千厩高校を卒業し、1963年に岩手県警察に入庁した藤野さん。時代の流れとともに変化する社会問題と、誠心誠意に向き合ってきました。「時代が変わっても警察官の目的は地域の安全を守り、秩序を維持すること」ときっぱり。目標の達成に向けて、日々、試行錯誤を繰り返してきました。

「何事も県民の皆さんの協力があつてこそ。章は県民の皆さんと一緒にいただいたもの」と話し、内助の功にも感謝していました。



統計調査功績 元国勢調査員

藍綬
褒章

鈴木 衛さん

すずき・まもる 80 大東町

農業の傍ら、1960年に国勢調査員として任命されて以来、国勢調査11回、農林業センサス調査11回など、各種調査に45回従事してきました。調査では信頼を得るため、言動に気をつけ、得た情報は決して口外しないなど、実直に取り組んできました。「統計は政策の土台。正確な資料になるよう何度も点検をした」と振り返ります。「妻の支えと地域の協力があつてこそ」と今回の受章について感謝しています。



消防功労 元花泉町消防団分団長

瑞宝
単光章

奥山喜美雄さん

おくやま・きみお 79 花泉町

1955年、花泉町消防団に入団。97年の退任まで、42年間にわたって地域の防火防災に取り組みました。「入団当時は、常備消防が未結成で水利も乏しく苦労した」と当時を振り返ります。93年から4年間務めた分団長時代は各集落で「防火の輪を転げるキャンペーン」を展開。野焼きの危険性などを地域住民に周知し、老松地区内で3年間無火災を達成しました。受章について「先輩、後輩に恵まれた。地域の支えがあつてこそ」と喜びました。



薬事功労 元国立仙台病院薬剤科長

瑞宝
双光章

千葉研也さん

ちば・けんや 78 赤荻

病院薬剤師として旧国立岩手療養所のほか、東北各地の国立病院に勤務。入院患者の服薬指導に尽力しました。印象深いのは1994年、仙台病院が国の指定を受け、院外の薬局で薬が受け取れるモデル病院に。千葉さんは地元の薬局で薬が受け取れるよう面分業に取り組みました。退職後は地元の調剤薬局に勤務。「医療はコミュニケーションが大切。これからも薬との正しい付き合い方を教えたい」と笑顔のぞかせ、受章を喜びました。

